

Glyco25 への参加報告

生命農学研究科 動物細胞機能研究分野 M2 大本 敬之

出張先 : Milano (Italy)

出張期間 : 2019 年 8 月 23 日 - 9 月 3 日

出張目的 : 国際学会 Glyco25 への参加とポスター発表及び GTR 融合研究のためのダブルメンターとの研究打ち合わせ

概要 : イタリアのミラノで開催された糖鎖に関する国際学会 INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON GLYCOCONJUGATES 25th (Glyco25)に参加した。Glyco25 は 2 年に 1 度糖鎖全般に関する研究者が集まる学会で、この度私はこの学会で、“Biological significance of α 2,6-sialyltransferases in early embryos of medaka fish” というタイトルでポスター発表を行った。また、GTR の融合研究予定先のダブルメンターの先生と研究打ち合わせも行った。

所感 : 本学会が人生初の国際学会への参加であると同時に人生初の海外渡航であった。初の異国の地での生活や自分の英語能力及びコミュニケーション能力に不安を抱えながらこの学会に参加したが、学ぶことが多く、絶対に日本に居ては経験できないような体験をすることができた。今まで参加した学会では、なかなか自分の研究分野つまり糖鎖やシアル酸に近い研究をしている発表を聞く機会がなかったが、今回は糖鎖の研究者が集まった学会であったのでポスター発表では、いつもよりも多くの研究者とディスカッションでき、さらにどれも的確なアドバイスばかりでとてもためになった。また、自分のポスター発表にダブルメンターの先生や自分の研究分野ととても近く、いつも参考にしようとしている論文の著者である著名な大御所の先生方ともお会いしてお話することができ、自分の研究を評価してくださったり、鋭い質問や貴重な意見をいただけて、とても有意義な時間を過ごせた。さらに、他のポスターやセッションも分野に近いこともあり、とても興味深い報告ばかりで多くの情報を得ることができた。しかし、それと同時に自分の英語力やコミュニケーション力の乏しさを痛感し、これからもっと磨かなければならないと感じた。一方で、学会会場の近くにはミラノのドゥオーモがあり、日本では絶対に見られないその大きさとヨーロッパ建築の美しさに感動した。また、生活面ではさまざまなハプニングにも見舞われたが、これも日本に居ては経験できないことであり、とても良い経験となった。

最後になりましたが、本学会への参加を支援していただいた GTR プログラム並びにサポートしてくださった GTR 職員及び先生方の皆様に心より感謝いたします。

